



★プロフィール

稲盛 和夫 (いなもり かずお)
 1932年生まれ、鹿児島市出身。
 1959年に京都セラミック株式会社
 (現京セラ)を設立。社長、
 会長を経て1997年から名誉会長
 を務める。

市制施行60周年特別講演会が9月16日、枕崎観光ホテル岩戸で行われました。聴講者約900人が集まり、熱心に聞き入りました。約2時間の講演の中から、一部内容を紹介します。

演題 「人は何のために生きるのか」

私は27歳で会社経営を始めて以来、今日までの50年間、ただ真面目に会社経営を一生懸命やってきた。その中で、人は何のために生きるのか、人生とはどのようなものか、人生とどう向き合っていくかを考えた。

人にはそれぞれに運命が備わっている。その運命の中で、私たちは災難や幸運を繰り返し波乱万丈の人生を生きていく。いろんなことに遭遇するたびに、どういう思いを抱くのか。美しい心を抱くのか。邪悪な心を抱くのか。その心の持ち方によって、運命は変わっていくということ。私は自分の人生の中で体験している。良いことを思い、良いことを実

行すれば、人生はより良い方向に変わっていく。一方、悪いことを思い、悪いことを行えば、人生は更に悪い方向に変わっていく。そういう因果の法則を私は会社を経営しながら思った。

人は誰でも幸せに生きられるようになっていると確信している。だれでもすばらしい人生を生きていくことができると思っている。大切なことは良心が導くがままに人生を生きていくこと。良心とは純粹で美しく思いやりで満たされた優しい心。良心が指し示す方向に生きていけば、人生はすばらしく展開していくと思っている。

私は今日まで警沢をしていない。あれをしたい、これをしたいとい

う個人的な欲望も余りない。必死にまじめに一生涯懸命努力し働いてきた。そのことが私の魂を磨いてくれたと思う。

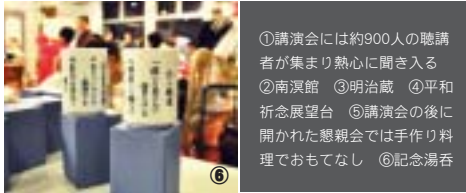
最近、「働き方」という本を出版した。働くということはすばらしい財産を生み出してくれる。ともすれば給料をもらおう、お金を儲けるために働くと思われるが、そうではない。働くことは本当に苦労である。特にわき目も振らず一心不乱に働くということは苦労である。しかしその苦労は魂を磨き、邪悪な心を削ぎ落とし、きれいな美しい純粋な心にしてくれる。だから苦労して一生懸命働くことは、お金を儲けること以上に自分の心

を美しくしてくれる。

何が一番大事かといえば、財産でも名誉でも地位でも何でもない。どれくらい心が磨かれて、美しい心になったのかということだけが、この現世における宝である。

現在77歳。やがて私も死を迎える。死というのは、肉体は滅ぶが、私の魂の新しい旅立ちだと思っている。だから死を迎えるときには泣いたり笑ったり波乱万丈の人生を生きている中で、少しでも心を磨いて魂を磨いて、美しい私の心が旅立っていく、そういう人生でありたいと思っている。

広告のコーナー



①講演会には約900人の聴講者が集まり熱心に聞き入る
 ②南溟館 ③明治蔵 ④平和祈念展望台 ⑤講演会の後に開かれた懇親会では手作り料理でおもてなし ⑥記念湯呑